

トロント小児病院

派遣期間：2013年7月1日～8月2日

【学習成果について】

てんかん発作における脳波の読み取りや、てんかんにおける外科手術について研究・学習することができました。トロント小児病院は、非常に数多く症例が集まる病院であり、数々の脳波を読むことができました。脳波は非常に多種多様であり、その読み取りには豊富な経験が不可欠ですが、今回の期間でたくさんの脳波と触れることによって、脳波が以前より身近なものとなり、発作の開始点や終了点など、判断が少しずつできるようになりました。発作時と発作間欠期の脳波の違いなども、より親しみをもって見るできるようになりました。また、手術見学する機会もいただけ、実際に開頭して脳に電極を埋め込む手術と、取り付けた電極を外す手術を見学することができました。取り付けた電極によって脳波を取り、その脳波を読み取り、解析した後で電極を取り外し、脳の摘出部位を決めるといった、てんかん手術の一連の流れを体感することができました。

【海外での経験について】

海外でこのような実習をさせていただくことは初めてだったので、最初は楽しみと不安が入り混じる気持ちでした。外国でこれだけ長く滞在するのも初めてで、異国の地で慣れないこともたくさんあるだろうと思っていました。英語は、基本的な会話は話せるものの、高度な医学用語を使った会議などはどれだけ聞き取れるだろうかと心配していました。しかし、実際に現地で生活してみると、予想以上に充実した生活を送ることができました。外国人とのコミュニケーションはとても楽しく、専門用語も事前に勉強していったおかげで、ほとんど理解することができました。週末に買い物に出かけたりちょっとした観光をしたときも、何の不自由もなく楽しめました。英語の論文を読んだり、英語音声で映画やドラマを見たり、普段からこのような機会のためと英語学習をしていたつもりですが、予想以上の効果があったと思います。

【派遣プログラムの内容について】

今回のプログラムで、このようにカナダのトロントに行け、さらには世界的に評判のある病院で研究活動をさせていただいたことは、とても貴重な機会と認識しており、本当に自分は恵まれていると実感しました。派遣期間も学校の正規プログラムとしては十分長く、充実した研究生生活、海外生活を送れたと思います。さらに、実際に病院で実習できるプログラムであったことはとても魅力的だったと思います。研究活動だけでなく、実際に患者さんの様子や、医師と治療方針を相談しているところも見ることで、単なる海外派遣以上の経験ができたと思います。また、トロント小児病院の研究室で研究者と交流もたくさんすることができました。海外で研究者として働く意義や、研究していて楽しい

こと、つらいことなどを聞いて、今回のプログラムで、海外で研究することのやりがいを体感できたと思います。

【今後の進路への影響について】

今回の海外派遣で、脳神経外科と小児科の先生方と一緒に研究することができました。扱った疾患はてんかんで、対象は子供のケースが多く、その中でたくさんの知識を身につけることができました。脳神経外科はこれまでの学習で多少なりとも触れる機会はありましたが、小児科は何から何まで初めてで、このような専門科があるのだと気持ちが新しくなった気持ちです。小児科の先生とは特にたくさん交流をさせていただき、子供を助ける仕事の意義を感じ取ることができました。自分にとって全く新しい領域ですが、このような領域も自分の将来の選択肢の一つであると感じました。これから先、自分のフィールドを決めていくにあたり、今回の経験は非常に重要なものであったと認識しています。今回の経験を糧に、今後も努力を続け、自分の進路をしっかりと見据えていきたいと思っています。

【その他】 今回の海外派遣プログラムでは、想像以上に充実した経験をすることができました。海外での研究活動・海外生活・異文化コミュニケーションなど、自分にとって新しいことがたくさんで、そのような体験をさせていただき、サポートしていただいた方に本当に感謝しています。カナダでお世話になった方々と今後も交流を続け、また、今回の経験を今後に生かし、自分自身を磨いていくつもりです。今後も、日本でできることを継続的に続け、さらなる上昇志向をもって、研究・学習を続けていきたいと思っています。英語学習も、論文を読むことによって、その重要性を痛感しました。今後も努力を重ね、読解力・会話力の両面で向上させていきたいと思っています。